

## 第6回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成30年3月26日（月） 14:00～15:55

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第3会議室

### 3 出席者

- (1) 委 員 中川玄洋委員長、下澤理如副委員長、上田雅稔委員、佐々木ちゑ子委員、有田裕委員、池井輝夫委員、鈴木伝男委員
- (2) 鳥取市 福島協働推進課長、宮崎協働推進課課長補佐、西尾協働推進課市民活動係長、加藤協働推進課主任
- (3) 傍聴者 なし

### 4 議 事

#### (1) 説明・報告事項

平成29年度鳥取市市民まちづくり提案事業【協働事業部門】（行政提案型事業）の実績報告について

#### (委員長)

鳥取市市民まちづくり提案事業【協働事業部門】について、とっとり砂のルネッサンス実行委員会より報告をお願いします。

#### (とっとり砂のルネッサンス実行委員会)

目的としましては、全国でも砂像をモチーフにまちづくりを行っているところは数か所あり、日本一の砂場のまちとして、鳥取を砂像の聖地という位置づけまでブランディングしていく必要がある。ブランディングを確立することで、観光資源としての鳥取砂丘がより強い波及効果を与え、まちに活気が生まれてくる、と考えている。

目指す先は、札幌雪まつりに並ぶ、鳥取砂像まつりである。砂像を中心に鳥取市民が一丸となり、観光客を誘致していく体制を整えていきたいと考えた。また、懸案事項となっている砂像彫刻家の育成に向けて若い世代に砂像にふれあっていただく機会を作り、鳥取市での砂像文化の醸成に取り組むこととした。鳥取市の国内砂像選手権等事業にあわせて、ちびっこ砂像選手権を開催し、市内の子どもたちへ砂像を身近に感じてもらうとともに、砂と幼児教育を専門にしておられる同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授の笠間先生とその学生ボランティアと共同で事業を実施することにより、砂を通じた交流と広がりの可能性を広げた取り組みとなった。

鳥取駅前風紋広場内に設置した砂場エリアにて小学生以下によるミニ砂像コンテストを実施し、残念ながら、2日目が悪天候により、当初予定を変更し、11月5日に日程をずらし事業実施した。参加者は小学3年生から6年生までで定員各6名、総参加人数20名、参加者の中から最優秀賞1名、優秀賞2名、ユーモア賞3名、リアルで賞2名を選び賞品を贈呈し、同志社女子大学現代社会学部現代こども学科の笠間教授のゼミ生徒に砂像制作講師及び運営補助として参加をいただいた。

反省点は、子どもが砂を粘土のように扱っていたので、砂像という彫刻としてレベルアップしていけ

たらと思う。また、参加者からの意見として、砂絵の色を白と黒以外にも用意できたらという声もあり、今後ブラッシュアップを考えたいと思う。ちびっこ砂像選手権が最初どのようなものがわからなかったのか、あとで参加したかったという声もあった。賞状は子どもの自信につながったと思う。各学校の校長先生から手渡していただき、参加者の子どもにとっては記念に残る体験となったのではと思う。また、写真は撮って残っているが、雨の日の対策ができていなかったため砂像自体を残すことができなかった。

今回、協働事業として官民一体で取り組むことで鳥取市を砂像の聖地としてブランディングしていく第一歩が踏み出せたと確信しており、中心市街地でイベント実施したことで多くの市民の方に砂像の体験をしてもらい、市の砂像文化の醸成に貢献できたと考えている。また、懸案事項となっている砂像彫刻家の育成に向けて、小学生を中心に砂の魅力が伝えられたのではないかと思う。ちびっこ対象とした取り組みは中心市街地では初ということで効果的であったと考えている。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課)

実行委員会からの説明にもあったように、今回の取組によりこれまで市民と行政との間にあった意識の隔たりや砂像制作のハードルの高さといったものが少しは取り除けたのではないかと考えている。また、駅前で実施したことにより、これまで砂の美術館に行ったことのない、砂像に触れる機会があまりなかった方にもアピールができたと思う。引き続き、反省点等を改善しながら継続して取り組んでいきたい。

(委員長)

委員の皆さんからご意見、ご質問等あればどうぞ。

(委員)

像彫刻家の育成に向けてということで、とにかく小学生等に砂像に興味を持ってもらおうという趣旨で行われたと思う。今後の具体的なロードマップのようなものはあるのか。

(とっとり砂のルネッサンス実行委員会)

資料のようなものは作っていないが、小さなころから砂像に触れてもらうということが重要であると委員会の中でも意見が一致している。今回、大学生の砂像国内選手権も開催したが、これから鳥取市民の中からプロの砂像彫刻家が出てきてほしいというところで、まずは大学生とちびっこの選手権という形で大学生が鳥取市に住み着いてくれて作家になっていただくということも思い描くが、そう至らないこともあり得る。地元の小学生たちに郷土愛等も含めて醸成する仕組みになればと考えている。

(委員)

今回携わった小学生が、大学生等になるまで継続してしっかりサポートしていく仕組みが必要なのかなと思うが、その中で、砂の美術館との連携や将来ビジョンのようなものはあるのか。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課)

砂の美術館が世界、あるいは日本で一番トップの施設であるという位置づけで、なるべくそこに携わる地元の方をたくさん創っていききたい、さらに地元から彫刻家を発掘、育成したいという思いがある。

昨年度、国内砂像選手権を開催し、その中で大学生を対象としたインカレ部門を開催し、初めて砂像に触れていただく方もいた。これについては来年度以降も予算化をして継続していくこととしており、大学生から小学生まで鳥取の砂像に興味を持ってもらって、砂像彫刻家の発掘と育成につなげていきたいと考えている。

(委員)

駅の南口に並んでいる砂像はどういった方が作られているのか。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課)

駅の北側については砂像連盟とか、普段砂像に関わっている人、全国から一般公募した皆さんに作っていただいたものである。駅の南側のものについては、すべて全国から公募した大学生が制作したものとなっている。

(委員)

どれくらいのお客さんが見に来てくれたのか。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課)

期間中の概算で2万人の来場があった。

(委員)

砂像に取り組んでいる地域は鳥取のほかはどこがあるのか。砂像彫刻家の育成に関して、砂像の彫刻そのものの美術的な評価等で関心を持たれているのか把握していれば教えてほしい。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課)

全国で砂像に取り組んでいる場所は、美術館としては南さつま市が先進地として砂像選手権を含め様々な取り組みをしている。そのほか砂像連盟という形で、福岡県芦屋町、高知県黒潮町、秋田県三種町、名古屋周辺の尾張砂像連盟が取り組んでいる。その他、大小有るがビーチや砂浜があるところで砂像のイベント等に取り組んでいるところがある。

次に、砂像彫刻家の芸術家としての立ち位置、状況については、砂像自体がまだ芸術としてあまり認められていないというところは懸念しているところで、砂の美術館は、鳥取市の経済観光部の一セクションということで、観光の側面と芸術の側面を併せ持った施設であるという認識である。当然、経済観光部としては観光の側面を前面に出してお客さんに来てもらうということが前面にあるが、芸術の面においても向上させていかなければいけないという思いがある。現状、砂像の芸術としての捉えられ方は世界においても日本においてもまだまだと考えている。

(委員)

鳥取が中心となる、聖地となるということだが、砂像彫刻について観光の目玉の一つとして終わってしまっていないのかという思いがある。たとえば、絵画でいえばそれなりの画家が描いた芸術としての絵画と映画館の活劇の看板の絵と同じくらい隔たりがあるように思う。砂像文化という以上は、それを芸術的な評価まで鳥取で上げていく努力が必要ではないか。教育委員会も関わるような形で仕事を進めて

いただきたいと思う。

(委員)

観光としては採算が合うということももちろんだが、大切なのはやはり文化として高めていく、根付かせていくということに軸足を置かないといけないのではないかと。目的と狙いは非常に素晴らしいと思う。今後は参加者がステータスというか注目を浴びるような働きかけがあればもっともっと鳥取市の文化として根付いていくのではと思っている。どんどん進めていただきたい。

(委員)

場所は駅前の風紋広場ではなく、砂の美術館あたりの方がよいのではないかと、雨の日の対策として砂の美術館の方が配慮しやすいのではないかと。子どもの参加者が20人ということだったが、何回か行うことで子どもたちに定着していくのではないかと。

(委員長)

予算枠が40万ということで実施されたが、参加者20名だけではなく、そのご家族等も含め、その空間にどのくらいの人があったのか数字が載せてあるとよい。先ほどの概算2万人というような数字ではイメージがつかみにくい。この事業は最初の一步の事業であって、翌年度以降も開催する場合は担当課の方で予算を取っていただくような形で進めていくべきことで、あくまでもチャレンジという要素も強いはずなので、担当課の方でこれは40万払ってもよかったと思えるかどうかという検証も重要と思う。5年、10年というようなスパンで取り組んでいただかないと意味がないと思うので、担当課の方でしっかりと予算化して継続的な事業に育て上げていただきたい。

(委員)

美術というか観光ではない考え方で大きくしていこうという方向であれば、指定管理者ももう少し考え直す必要があるかと思う。どの指定管理者にやってもらうか、たとえばブリジストンにやってもらうとか、日本で美術館をやっているところは企業も含めていろいろある。そういうところに砂の美術館を管理してもらうということをやっていないと、そこから先の美術的な感覚が伸びていかないと思うので検討してほしい。

(委員長)

続きまして、鳥取の女性を応援する実行委員会から報告をいただきたい。

(鳥取の女性を応援する実行委員会)

今回、私たちが行った事業の目的は、一つは鳥取の女性が社会で活躍するためのきっかけづくりをすること。もう一つは、実際に鳥取で事業をされている女性、ロールモデルによる人材の育成や発掘、また、その場での人脈づくり等、横のつながりを作ることで、これからどうしていこうと悩んでいる女性の孤立を防ぎ、地域活性化を図ることを目的として事業を行った。

「女性がもっと輝くとっとりへ！キラリ★さきがけ塾」というタイトルで12月9日、カフェソースバンケットにて実施。メインは、講演会を入れまして、「貴女は貴女で素晴らしい！貴女の花を咲かせよう！」という演題で、大阪から一般社団法人ラブミー協会の小山吉美さんに講演をいただいた。女性が

地域で活躍すること、自分が得意なことで社会貢献をすることで自分が輝くことができるということをお話しいただいた。

会場内では実際に事業されている女性との座談会という形で、4つのブースを設けて、お越しいただいた方が自分の興味のある分野について6人程度のグループになり、近い距離で直接お話ができるという形とした。1日通して行っていたのが、飲食ブース、体験ブース、ワークショップなど事業でされている方の取組を参加者に体験していただくということである。

併せて、今回は女性をテーマにしたが、なかなかタイミングのないストレスオフの機会を提供することもできた。参加者については当初100名を目標にしていたが、審査会の際にも委員の皆様から「鳥取で100人集めるのは難しい」といったアドバイスをいただき、担当課より広報を行っていただいたこと、また、私たち実行委員も地道にポスティングや顧客への声掛けなど、鳥取市以外も含めて情報提供に努めた。その結果160名のご来場をいただくことができた。来場された方が、来てすぐ帰られるということではなく、長時間にわたって滞在してくださったこともあり、皆さんの関心の高さを実感できた。場所についても決してわかりやすいところではなかったし、駐車場も無かったが、アンケートでもそのあたりに指摘は少なく、テーマやブースに対して興味を持っていただいたのではと思う。

講演会や座談会もすべて同じ会場で行ったことで、出展者の方も含めて一体感を持ってイベントを進行することができた。参加いただいた方から「前向きになれた」「参加者が多く関心の高さを感じた」「自分の人生を楽しむヒントになった」「なりたい自分になるために後押しをもらえた」などの声があり、地域で活躍している女性の姿や経験を身近なものとして感じてもらうことで、今後参加した人たちが社会で活躍するためのきっかけづくりをすることができた。

ロールモデルとなる女性を中心とした座談会では、ネットワークが広がり人脈づくりがでたと感じている。イベント終了後に出店した事業者のところに参加された方から個別に問い合わせがあったり、年明けから出展者のところで講座を受講されたりということも報告を受けており、自分のやりたいことが見つかったり、大阪や東京に行かなくても鳥取でやりたいことができると感じていただけた方が実際に動き始めているということは大きな成果であったと思う。また、参加者はもちろん、出展者の方からも高く評価する声、早期の次回開催や継続を求める声も多数いただいている。

少し残念だったのは、女性がテーマであったために、男性が入りづらいところがあったのではと思っている。女性が活躍するためには、男性にも「こういう雰囲気ややっているんだな」とか「こういうことを望んでいるのだな」ということを知ってもらうことが重要だと思うので、今後も継続していく際には、男性にもどんどん参加していただけるようなイベントに成長していければと考えている。

#### (男女共同参画課)

協働事業の効果について。当課として一番大きなテーマとして掲げていたのは、社会で活躍している女性を一人でも多く発掘し、実際にそれを発信するという事。結果的に今回の実行委員会の皆様とご縁があり、これまで行政と協働してイベントを企画したり、審査会でプレゼンしたり提案したりということをしたことがない、初めての方ばかりだった。そういった方々が協働で事業を企画、実施され、予想以上の成果を収めたことは、皆さんの大きな自信に繋がったと思う。イベント終了後、委員の中で7名の方に女性人材バンク登録をいただき、これからはその方たちも市の各種委員会等で意見を発信してくださることになるかと思う。そのほか、事業終了後に地方創世の担当課の方から市長と女性の個人事業主とのストリートミーティングの企画があり、それを受けて本事業が来年度から女性活躍推進事業として予算化され継続していくこととなった。

(委員長)

それでは委員の皆様から質問等あればどうぞ。

(委員)

ロールモデルとなる地域の女性との座談会には、具体的にどのような方が出られたのか。

(鳥取の女性を応援する実行委員会)

ご夫婦で農業されている方がご夫婦で座談会を、カウンセリング式で悩みを聞くスキルを持った方、カフェをされている方、リラクゼーション、癒しを提供している私の4人である。一人あたり30分くらいの座談会を設けたが、「この人の話を聞きたい」ということで目的をもって来場された方もおられた。

(委員)

審査会の時は、不安を持ちながらもプレゼンされておられたが、自信をもって報告されている今日の表情を見ていて、いい事業になったのだなと感じた。参加者が多かったこともよかったし、人材バンクへ登録された方がおられたこともよかった。

(委員)

孤立させない、友達を作るということがとても大事だなと思った。悩みや思い、ストレスを話し共有できる場は大変重要だと思う。これは地域コミュニティにおいても同じことで、孤立させないことで社会に目が向き、最終的に生き生きと暮らしていける、そういったきっかけづくりをされたと思う。1回限りの事業ではなく、継続していくとのことなので取り組みが根付いていくことを望む。

(委員)

女性を巡る社会の仕組みがどんどん変わっているという印象を受けているが、その中で女性の皆さんはどうやって生きていくのかということ悩んでいらっしゃることが事業報告の中から拝見することができた。こういった仕組みは地域などにも持ち帰って進めていけば、もっと鳥取が元気になっていくだろうなと感じた。

(委員)

はじめてこういった補助事業に取り組みられたと思うが、行政からもっとこういったところのサポートがあればというような思いがあれば聞かせてほしい。

(鳥取の女性を応援する実行委員会)

当初は補助金をいただくことになったもののどう使っていったらいいかわからないという状況だった。もちろん担当課からのサポートはあったが、ほんとに素人の集団で、実際に動いてみて感じたのは場所探しである。時期的なものもあったと思うが、予算的なものも含めて苦労した。それぞれが仕事、事業をしているメンバーなので大変で、看板の設置も商店街の規則もあり大変な思いをした。そういう意味で、どこにどんな会場があるのか、駐車場はどうか、割引はあるのかなど、また、商店街や各

種団体との連携等が公共的な事業ということでもう少しサポートがあるとうれしいと感じた。

(委員長)

2団体から報告をいただいたが、来年度以降のこの事業や審査そのものについて皆さんから意見があれば伺いたい。特に今年度は不採択になった事業もあり、そういったことも含め大枠の部分というか。

(委員)

引き続きこの事業を進めていくべき。行政だけで解決できる問題ばかりではないので協働で民間の力も借りながら進めていくことで、それがきっかけになったり、継続性が生まれたりすることもあると思う。せっかくいいアイデアがあってもお金の面で動き出せないところもあると思うので、最初の一步を行政がちょっとサポートしてあげるような仕組みは費用対効果の面から見ても意味のある取り組みであると思う。

(委員長)

今回はちょっとドタバタした感じがあった。一つは、本来であれば各担当課の方で必要なものについてはもともと予算化してあるわけで、そこに加えてプラスアルファというのは難しいのではという点。もう一つは、該当するような市民団体と行政の担当者が、そもそもつながっていないケースが多いと思うので、協働でやってくれと言われても誰とやればいいんだということになってしまうのではないかと。ボランティアセンターがコーディネートすることでもう少し打率が上がるのではないかと思う。

今回の女性活躍の方の団体さんはたまたま動きのいい方がたくさんおられて、上手に成果もあげられたけど、そうそううまくいくものでもないと思う。あとはスケジュール的にいつごろまでに採択を決めるのか、今回のように良い団体が発掘できれば良いが、そうでない場合、無理して予算を執行することもないと思う。40万をもらって事業をするということは、うまくいけばよいが、失敗すれば団体さんにとって大きなダメージになるということも考慮し、いつごろまでにということころはもう少し検討すべきと思う。

## (2) 協議事項

平成29年度市民自治推進委員会活動報告書について

(委員長)

次の協議事項は、まず事務局から説明をいただけるとのことだが、先日まちづくり協議会の研修があり、その受講者用のアンケートも含め説明をお願いしたい。

(事務局)

まちづくり協議会の研修会は、3月13日に文化ホールで行った。参加対象者は、まちづくり協議会の事務局である公民館の職員、事務局長である館長、まちづくり協議会の会長で、委員長から豊岡市での取組についてお話をいただき、その後グループで討議をしていただいた。アンケートの結果は、お示ししている通りだが、以前から言われているように、まちづくり協議会の事業、自治会の事業、公民館事業の整合性が取れていないところがある、一体化したところの運営体で地域運営がなされるべきという意見など様々だった。また、人材の育成や資金についての要望などあった。

(委員長)

かなり多くの地域の方にご参加いただいたが、流れとしては、豊岡市がここ7年ほどかけて枠組みの検討を、3年ほどでモデル事業を行い、今年から公民館をコミュニティ施設として運営をしている状況があることについての話をした。また、行政サイドとしてできることが減っていく中で、地域がどうそれを担っていくのかという内容を話した。あと、私自身今地域でPTAをしているが、それが終わると一度関わりがなくなって、仕事を辞めた後にまた関わりが復活するというようなことがあるが、その空白期間をもっと活用できた方がもっとプレイヤーが増えるのではないか、もしくは70代80代で頑張っておられる方がいるが、その人たちなしでは回らない歯車があるというようなこともグループの中で出てきたと思う。このようなことから、早め早めに人材を見つけていかなければいけないということが一つである。

それから、学校組織を巻き込むときには、学校や親の都合もあるのでそのあたりに配慮してあげると仲間になってくれやすい、基本的に動員で人を集めるのは避けた方がよいというような話をさせてもらった。アンケートにも書かれているが、悩みどころや位置づけが地域によってかなり違うということがある。まちづくり協議会と公民館が近いところ、自治会が強くてまちづくり協議会の存在が薄いところなど、いろいろ見えてきた。全体として、研修に出てこられた方は問題意識を持っている方ばかりであったと思うので、本当はそれぞれの地域、それぞれの人の話をクリニック形式で伺ってみるところまでできればと感じた。

<事務局資料説明>

(委員長)

現時点でいろいろ調べていただいた結果、モデル化というのは結構難しいのか。

(事務局)

意見交換の中では地区公民館の指定管理による運営をしてみたいということ積極的に考えている地区もあった。

(委員長)

豊岡市でも4系統に分けた考えではあるが、最終的には各地域でカスタマイズし、いずれは指定管理の話もするという事になっているが、今のところはまだ至ってなくて公民館は市の直轄管理で、地域マネージャーと呼ばれる地域のコーディネーター的な役割の人も市の方で雇用しているという状態である。

これは、3年間という移行期間を設け、その間に地域に受け皿を作らせつつ、指定管理を受けるか地域に判断させる事になっている。できる地域から手を挙げてもらってやっていくというところが現実的なところではないかと思う。

(事務局)

この度の議会の中でも、協働のまちづくりが10年経過したところで、今後どう捉えていくのかという内容で質問をいただき、答弁させていただいた。また、市長と協議する中でも、モデルを作る

ということについても考えていかないといけないかもといったことも言われている。ただ、そのモデル設定については、十分に吟味して、何でも試しにというのではなくパイロットケースとして今後どの地域においても追従できるような形のものを選ぶようにと言われているところ。それと並行し、アンケートやブロックごとのヒアリングを行う中で、61種類という多種のバリエーションを持つ地域を類型化するのは難しいというところがある。

委員からは、類型化したものを示されたいとのご意見をいただいたが、そういった形ではないものを改めて発見させていただいたというか、こういったところからモデルケースが出てくるのではなかったところもあり、これからそのあたりの精査をさせていただき、来年度にはモデルを探していくような形で進めたいと思っている。

(委員)

我々の議論というのは、人が足りてないなど様々な地域がある中で、それなりに汎用性のあるものを提案するというものであるはずなので、それを踏まえたうえで、なおモデルケースが提案できるのであればよいが、ちょっとイメージが湧きづらい。

(事務局)

イメージできる地域運営体というものの具体例があったということでご理解いただきたい。そのためには、汎用性のあるもの、ルールやシステムとして全部に通底するものは考えていかないといけないと思っている資料、皆さんにも一緒になって考えていただきたい。そうする中で、公民館に関して市長部局と教育委員会という日本の関わり、外向きにはまちづくり協議会と自治会、それに向けたわかりやすい支援の形、この三つをわかりやすいシンプルな形でもっていかないといけない。この条件整備については今作業している。

(委員)

色々と論点が出てきたのはいいことだと思う。ただ、大変だなということもよく分かったところで、並行して、現状というものが何に起因しているのか、それが望ましい形なのかということも検討していかないといけない。現状に合わせてすべてを緩和していくということだけではなく、場合によってはそもそも現状が間違っているのであればそれを正していくことも考えなくてはならないと思う。その両面から考えていただいて、最低限これは、ということを出してもらえれば我々も最低限の仕事ができたということになると思っている。

モデルケースをというお話に関しては、今現在割とうまくいっているところで、かつ、汎用性のある仕組みを当てはめ、さして混乱の生じないところを選んでやってみるということでは少なくとも失敗はしないと思う。どのくらいのエッセンスが得られるのかよくわからないところはあると思うが、もともとうまくいっているところに最低限の仕組みを持ち込んだところで、それは当然うまくいくだろうというところもあるので、とにかく動かしてみても分かると思うし、ここでいくら議論をしたところで、まちづくりってなかなかわからないところがあると思う。

(委員)

小手先だけの話ばかりしていてもしょうがないと思っている。自治って何なのかというシンプルな話からスタートしていくべき。楽しく生きていくためにはまず自分が努力して汗をかかないといけない。

ただ、自分という枠の中だけではどうしようもないこともあるわけで、隣近所や町内会、みんなで成り立っていく。町内会でも完結できない部分は、公民館単位の地区で、それでもできないから行政に願います、この道筋がいちばんの基本だと思う。

その面で考えると、昨日の市長選挙の投票率に表れているけれども、31.5パーセントとは何事かと思う。自分の住む地域のことを考えずして何も上手くいくはずがなく、これがすべてに波及している。町内会の加入率も60パーセントそこそこ。これで本当に何ができるのだろうと思う。たとえば、天災が起きたとき。確かに基本は自己責任だが、それだけでは完結できない問題がある。地域に自主防災組織が必要で、そのためにはルールやマニュアルが必要である。また、自治連合会にしてもそうである。トップダウンではなくボトムアップで生まれてきた課題を町内会会長会等で話し合っ、解決していくことが必要だと思う。

(委員長)

豊岡市では、地域にアドバイザーを派遣して、必要なものと必要でないものを棚卸する、一緒に考えるという仕組みを取っていて、そういったところに支援をするという手法もありかと思う。

(委員)

自治会の加入率が低いということに市の方で努力しているというところが見えてこない。入らない人を勧誘すれば人権問題にもなりかねないといった状況を放っておいてまちづくりというものは成り立たないのではと考えるが、加入促進対策がいちばんの基本ではないかと思うが、市の方ではどういう考え方をしているのか。

(事務局)

加入促進については、本年度から来年度にかけて、自治連合会が地区会長のOBの方を雇用し、その人件費を鳥取市が補助金という形で支援を行って、取り組みをしていただいている。具体的な例としては、集合住宅を対象に集中的に加入促進に向けた取り組みをしてもらっている。また、都市整備部では、新たに住宅地が造成されるような場合、事前に自治連合会、自治会に情報提供をするという形で協力させてもらっている。また、以前からの取り組みとして、転入者に対して自治会加入のチラシをお渡しするなど協力をさせてもらっている。

(委員)

従前から町内会に加入されていない方に対する対策が不足しているのではないか。町内会の取組、たとえば防犯灯は、未加入者は負担なしで明るさを享受していることになるわけで、そういったところを市の方から通知を送るなどの働きかけが必要なのではと思う。

(委員長)

報告書の方についての意見があればどうぞ。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは報告書については、案の通りとさせていただく。最終的には私と事務局の方で話をして報告させていただく。

## 5 閉 会